

国内メーカーで初めて

韓国に防風柵を輸出

PIARC出展きっかけに

理研興業株式会社（小樽、柴尾耕三社長）は、国内の防雪・防風柵メーカーとして初めて、外国に防風柵を輸出することし、一月に開かれたPIARC（国際冬期道路会議）札幌大会に、同社が最新技術・製品を出展したことがきっかけで、高速道路の建設を担当している韓国道路公社から直接、受注する見通しだ。

韓国道路公社が同社の防風柵を採用するのは、韓国北西部の仁川と北東部の江陵を結ぶ釜東高速道路の一区間で、海拔八百メートルの山間部に位置する上下線合わせて二千キロメートル。

PIARC札幌大会に参加した韓国の道路研究機関の関係者が、同社の展示ブースで柵模型や風洞実験の様相を撮影したビデオに目をとめ、技術資料を持ち帰ったことがきっかけとなった。

二月初旬に韓国道路公社からの引き合いを受けた同社は、すぐに技術者を韓国に派遣、基本的な設置条件の確認を行ったのち、細かな技術的打ち合わせを進めている。

五月下旬にも正式契約の運びとなっており、七

韓国道路公社から受注

高速道に2km設置

防風対策技術を高く評価

月には百小牧港から釜山港への直行便で製品を輸出する一方、同社の技術者が現地で施工管理を行う予定だ。

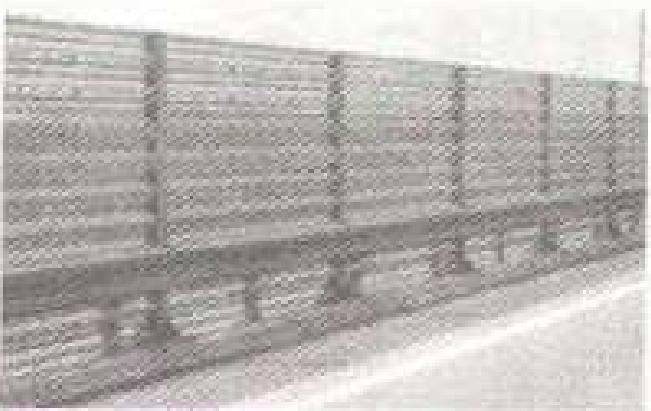
同社の柴尾社長は、「鋼材製の防風柵は、商品化され約三十年になるが、各官庁から指導を受けながら製品を進化させてきた。今回、この防風対策技術が韓国道

路公社から認められ、大

変光栄に思う」と話すとともに、同公社が今後も防風柵の設置を計画していることから、その受注に対して意欲を見せてい

理研興業は、昭和三十一年に創業。以来、防雪柵・防風柵・防雪対策施設的设计・製造を手掛

韓国・釜東高速道路の設置予定区間（写真上）と同社が輸出する防風柵（下）



ってきた。平成七年に最新の地吹雪再現風洞実験室や製品検査場を備えた本社社屋が完成。十一年には石川島播磨重工業株式会社のスター農機柵と技術提携を結び、新型防風柵の共同開発を行うなど、各地の地域性を考慮した高性能防風柵の開発に着手している。また、ことし一月には雪氷技術研究所を設立し、綿密な設計調査に基づき、数値シミュレーションや風洞実験を行い、現地状況に最も適した防雪対策の研究・提案に力を入れている。